

甲子プロジェクト連続講演会

『鳴尾の水資源と暮らし』

第4回「鳴尾地域の水道とその歴史」

『鳴尾の水資源と暮らし』*をテーマに連続講演会を開催いたしました。

私たちは、水道の栓を回せば飲料水が出てきて当たり前という生活をしています。大きな災害が起こって初めてそれが当たり前ではないことに気が付きます。

そんな今では想像もつかないことかもしれませんが、武庫川女子大学がある旧鳴尾村は、かつて毎年、水害と旱魃に悩まされ続けていました。当時の人たちはどのようにそれに対処して生活していたのでしょうか。そして、いつからこのような便利な暮らしになったのでしょうか。また、現在、どこから、どのように安全・安心な水を得ているのでしょうか。さらに、西宮の豊かな水資源をどうやって次世代に渡していけばよいのでしょうか。

今年度は、連続5回講演会を企画いたしました。学生の皆様をはじめ地域の方々と一緒に、是非、身近な水資源について考えてみたいと思います。

*採択研究課題「聖地研究 甲子園―聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価の研究」(19K12597 基盤研究(C))の一環として甲子園筋の水路にまつわる郷土史の背景を、武庫川から大阪湾まで生活美学的視点から深めます。

第4回「鳴尾地域の水道とその歴史」

◇日時：2023年12月2日（土）14:00 開始

◆会場：武庫川女子大学 中央キャンパス 南館 S-45 （西宮市池開町 6-46）

◇講師：船本 和弘（西宮市上下水道局水道施設部長）

大垣 裕亮（西宮市上下水道局水道施設部浄水課水質試験チーム主査）

◆コーディネーター：黒田 智子（武庫川女子大学生生活美学研究所研究員、同生活環境学部教授）

◇聴講無料・事前申込制

◆講演概要

鳴尾地域は、昭和初期の水道創設まで井戸水を生活用水にあてていた。特に武庫川沿いで豊富に湧き出す地下水は、ろ過を必要としないほど水質に恵まれていたが、1934（昭和9）年の室戸台風によって井戸の多くが塩水化したことや、軍需産業の立地によって、上水道布設が緊急課題となっていた。今回は、戦前から戦後の鳴尾地域の水道のあゆみと安全・安心な水を供給するための取り組みを紹介する。

お問い合わせ先

武庫川女子大学生生活美学研究所

TEL: 0798-67-1291（受付時間：祝日を除く月～金 10:00-16:00）

※研究会当日のお電話は、0798-45-9992 におかけください。

ただし、研究会運営のため不在になる時間帯もありますので、お問い合わせは余裕をもってお願いします。

E-Mail: seibiken@mukogawa-u.ac.jp

画像：鳴尾水源地（1963年、昭和38年）

